

第1回 消えゆく5千年前の海岸線／第2回 市内で最も古くからヒトが住んだ場所／第3回 江戸末期の石狩／新発見の「石狩河口図」を読む／第4回 発見された北海道最古の「河川遺跡」／第5回 地下に眠る氷海の鯨／第6回 化石海水でいい湯だな／第7回 マイコレクション／第8回 古代人の生活／第9回 石狩の石油王をめざせ!?／第10回 日本書紀と石狩川／第11回 石狩をおおっていた海2000年／第12回 夷地の関帝信仰／第13回 ビールもつくる珪藻土／第14回 姿を現した四千年前の「氷」／第15回 二つの鮫様／第16回 石狩から見える山／第17回 石狩でいちばん高い山／第18回 石狩の海岸／第19回 火の用心のお札／第20回 石狩はどこで雨出す?／第21回 防風林の謎／第22回 石狩市で一番古い写真／第23回 手稲山が生んだ?紅葉山砂丘／第24回 石狩の歴史／第25回 風と砂に生まれた砂浜のトップランナー／第26回 5000年前!?!のハマボウフウ



第28回 冬の防風林～ドラミングが語る多様な生きものの世界～／第29回 石狩でいちばん寒い日／第30回 自然のタイムカプセル／第31回 春を待つ木々の花／冬芽の中から探してみよう／第32回 座礁したクジラたち／第33回 新たに見つかった魚の骨～49号人は海でも漁をしていた?／第34回 虫たちのお食事／ムシはハマボウフウがお好き?／第35回 パイナップル／第36回 木々の心／第37回 石狩の遺跡／第38回 石狩の源流／第39回 井上伝蔵の句集／第40回 見逃す野生動物たち～フィールドサインが教えてくれること～／第41回 石狩紅葉山49号遺跡を世界遺産に! 初めて分かった縄文の技術「柵」／第42回 生振捷水路、土木遺産に認定～近代治水思想のモニュメント～／第43回 知津狩川の最初の一滴／第44回 石狩空襲 今も残る戦争の傷跡



いしかり博物誌連載100回 特別企画

# 石狩を見つめて10年

# 「いしかり博物誌」

今年で連載開始から10年目を迎える「いしかり博物誌」。そのタイトルから浮かび上がるのは、文化や歴史、自然など表情豊かな石狩の姿です。

第70回 サケ皮の装い／第71回 化石のたまご／第72回 アオイカガミのふかり／第73回 北のイタヤと南のカシワ～変化に富む石狩の海岸風景～／第74回 炎のかけら／第75回 アオイガイの正体見たり!／第76回 明治時代のチラシ広告—引札／第77回 国蝶オオムラサキの棲み家／第78回 秋の短冊／第79回 琥珀の砂／第80回 親方が撮った漁場風景／第81回 不思議なお札／第82回 「オニハマダイコン」／第83回 石狩おばけ—石狩湾の蜃気楼／第84回 漂着物の謎／第85回 はじまりはどこ?～望来・聚富の海岸植生観察～／第86回 長野商店の大看板／第87回 石狩の歴史／第88回 求む旧の出正宗のラベル／第89回 看板の履歴書／第90回 イカのカニ／第91回 ベル／第92回 石狩観光のはじまり／第93回 銀貨と瑠璃、北海道初上陸／第94回 石狩の歴史／第95回 サケ缶の食べ方／第96回 イルカの手／第97回 中世のサケ漁遺跡／第98回 石狩から見える山(絵画編)／第99回 イルカの足



アゲハの長い眠り～／第47回 カナダ先住民のサケ・マス漁／第48回 ベルツの見た樺太アイヌ／100年ぶりに明らかになったベルツの樺太アイヌ調査／第49回 浜辺の頭蓋骨／第50回 落葉しないのはなぜ?～カシワの越冬作戦～／第51回 「いしかり博物誌」の博物誌／第52回 石狩から見えるいちばん高い山／第53回 黒く輝く石～黒曜石～／第54回 防風林に春告げる「ナツボウズ」／第55回 俳句ロードへどうぞ／第56回 謎の漂着物!?!／第57回 チョウザメは、なぜ石狩に来たか／第58回 石狩の凱旋門／第59回 見捨てられた川／第60回 新しい鮭を迎える儀式／第61回 アキグミは晩秋のごちそう?／第62回 118年目の「石狩警察署」／第63回 石狩浜から世界が見える／第64回 石の恵比須様／第65回 風とともに生きる木々～子づくりは風が頼り～／第66回 村山家住居復元／第67回 石狩の海の色／第68回 勾玉／第69回 沼の魚たちはどこから来た

いしかり  
博物誌

100

いしかり博物誌  
連載100回  
特別企画

# 「いしかり博物誌」を 振り返って



10年前、「いしかり博物誌」の連載がスタートしました。それから今日まで、石狩の自然や歴史―博物誌には、どのような変化や発見があったのでしょうか。

この10年の間、市内の3地点で遺跡の発掘調査を行いました。紅葉山49号、51号、52号遺跡です。これらの発掘調査で分かったのは、石狩のサケ漁は想像以上に古くに始まったということです。江戸時代からサケで栄えてきた石狩のまちですが、実はそのルーツは縄文時代の中ごろ、4000年前までさかのぼることが明らかになったのです。さらに昨年の発掘調査では、歴史の空白を埋めるように、江戸時代以前(16世紀ごろ)のサケ漁の跡も発見されました。

石狩の海では、人知れず大きな変化が起きました。これまでめったに見られなかった、アオイガイ(温暖な海に生息する殻を持つタコ)を始めとする南の海からやってきた漂着物の増加です。2005年〜2007年が特に多かったのですが、2008年は再び少なくなり、アオイガイも過去3年の3割ほどしか見られませんでした。大

気や海洋には10年〜20年間隔で繰り返す変動があります。この10年で気候が次の局面に変化しようとしているのかもしれない。

石狩のまちにとつての最大の変化は、2005年の石狩市と厚田村、浜益村との合併でしょう。もちろんそれによつてこれまでの歴史が書き換えられるわけではありません。しかしこれがきっかけで、地域の資料や古文書などが散逸・消失してしまう恐れもあります。これは一度失われてしまったら、決して取り戻すことはできません。そんなことにならないために、今、厚田と浜益の文書や資料の整理を進めている最中です。

もうひとつ忘れてはならない変化があります。それは2004年、いしかり砂丘の風資料館のオープンです！ 小さな博物館ですが、これまで99回書いてきたような石狩の博物誌について調べ、資料や標本を集め、大勢の人々に知ってもらい、未来に残す役割を担っています。この資料館の活動を通して、これからも石狩の博物誌に新たなページを増やし続けていきます。

(志賀健司)

「いしかり博物誌」のバックナンバーが  
ホームページで読むことができます！

▼第1回~67回  
<http://www.city.ishikari.hokkaido.jp/profile/bunkazaih00151.html>

▼第68回~  
広報いしかり平成17年8月号~  
[http://www.city.ishikari.hokkaido.jp/publication/publication\\_top.html](http://www.city.ishikari.hokkaido.jp/publication/publication_top.html)

※平成18・19年4月号にはありません  
※平成19年7月号から隔月掲載です